

平成28年度第1回扶桑町総合教育会議・議事録

(記録者 松井 留美 印)

名 称	平成28年度第1回扶桑町総合教育会議
日 時	平成28年8月24日(水) 午後1時30分から2時45分
場 所	扶桑町役場2階 第2会議室
出席者	千田町長 中島教育長 加藤教育委員長 柴田職務代理者 松山教育委員 藤川教育次長 加藤学校教育課長 山田学校教育課指導主事 尾関生涯学習課長 千田文化会館長 稲葉福祉児童課長 事務局 高木総務部長 高木政策調整課長 兼松主幹 松井主査 傍聴者 なし
議 題	1. あいさつ 2. 議長の選出 3. 協議事項 (1) 土曜教室について (2) 子どもの支援について 4. その他
内 容	1. あいさつ (町長) 昨年からの「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に関して総合教育会議を昨年度4回開いて頂いたと聞いていますが、また、今年も開催をさせていただきました。特に教育委員の皆様におかれましては、足元の悪いなかお集まりいただきありがとうございます。今日の議題は土曜教室のことにつきまして募集状況や実態の状況共有などにつきまして、話し合ってください。忌憚のないご意見を頂きましてよりいいものを作り上げていきたいと思っておりますのでご協力をお願いします。 2. 議長の選出 (総務部長) 会議を進めるにあたり、議長の選任をお願いしたいと思います。昨年までは議長を町長に務めていただいたところですが、今年度第1回目ということで新たに選任をお願いしたいと思います。選任につきましては、委員さんの互選となっておりますので、推薦

していただける方がありましたら挙手にてお願いします。

(教育長)

まだ始まったばかりでございますので、慣例というのではないと思いますがこの場では千田町長さんに議長をやって頂くのが適切ではないかと思えます。

(総務部長)

いま、町長の方に教育長より推薦を頂きましたので皆さん賛同いただけるようでしたら拍手をもってお願いします。

【拍手】

では、これ以降の議事進行に関しましては町長、宜しくお願いいたします。

(町長)

ただ今、推薦をありがとうございました。皆様のご協力を頂きまして進めていきたいと思えますのでよろしくお願い申し上げます。

3. 協議事項

(1) 土曜教室について

(議長)

さっそく協議事項に入らせていただきます。次第3(1)土曜教室について、事務局から説明をお願いします。

(政策調整課長)

説明員といたしまして学校教育課長からご説明申し上げます。

(学校教育課長)

【「土曜教室について」説明】

(議長)

今、土曜教室について説明をさせていただきましたが、これから協議に移りますが、この件に関しまして意見がありましたら仰っていただけますでしょうか。

(教育長)

今、ご存じのように学校は土曜・日曜休みでございまして、平成の6年頃から公務員の休みのことについて学校はまず月1回土曜日休みにしようじゃないかと、だんだん2回になって、平成何年でしたか、全部休みになりました。その主旨は家庭に子どもを返すというようなことがあって、土曜日休みの時にいろんなことをやってきたのですけれども、子ども貧困が言われるようになってきました。要は経済的に恵まれた家は子どもを塾へやって、学校でも勉強し塾でも勉強する。片や余裕がない家については塾にやりたいのだけれども行かせられない。そういうことが言われるようになりまして、そういうことも考え併せまして教育委員会として多少なりとも少しでもそういう部分の補充をと。教科については全部というのは難しいので、とりあえず算数についてやってみようということで3年から6年生までを対象としてやったらどうかという判断を昨年度受けまして、とにかくやってみましょうということになって予算を付けていただいた訳なのですが、今年度スタートしてまだ2回やって夏休み入りしましたから十分どうであったかという検証はできませんけれども、最初に第1回目の時に回りましたけれども丁度お母さんがおみえでしたのでお聞きしたのですが、大変子どもがよく分かるというようなことを聞きました。これは現在、実質的には87名でスタートしておりますし、併せて算数はつまずきの多い教科でありまして、それを解消するためにも算数が一番いいのではないかとようになっております。指導者についてもやはり大事なことです。できれば教員OB、16人なかなか大変だろうなと思っておりましたけれども、コーディネーターの人をお願いしたら教員で全部揃いましたので、それをやることができたので、教育委員会としてはまずまずの滑り出しかなと思っておりますけれども、これを今後どうするかということについては、もう少しやってからと思っております。国の方は土曜日に授業をやってもいいよという土曜授業ということも言っておりますし、また、これは土曜塾、そういう呼び方で違うのですけれども、勉強の方はふそう土曜教室、運動の方でも体育館でわっと楽しくスポーツということで、土曜日にもそういうことをやって、そっちに参加する人も。もちろんスポーツ少年団とかで活躍している子がいますので来られるお子さんでありますけれども、今回スタートしてまずまずの手応えを感じております。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。他、委員さんの方から何かありますでしょうか。

(教育委員長)

最初に土曜教室をやるということをお聞きしたときに、私の経験でいくと、こんなことがあったのですけれども中学校3年生の生徒を持つ先生として関わった時に、私学を受ける生徒だったのですけれども、いろいろ数学をちょこちょこ教える内に、おかしいなあというところが多々ありまして、その中で一番、「えー」というのが九九を間違えるということですね。九九の、一の段、二の段、三の段とあるのですけれども、間違えやすい段というのがあるようですね。例えば四の段とか。そういうのがごちゃごちゃになってしまって簡単な計算が大きく間違えてしまうということが一つと、それから、その時に発見したのが分数の理解ができていないということ。それは $1/2 + 1/3$ が、分母と分子を両方とも足して $2/5$ だとか。そういう分数の計算が理解出来ていないなあ。そういうことが体験して分かりました。そういうことになる例えば小学校・・・教育長先生、2年生ですかね？九九を教えるのは。

(教育長)

3年からです。3年、3、4、5、6です。

(教育委員長)

それくらいのところで、3年生のところで九九を教えるということになると、自分たちも子どものころに親によく言われましたね。風呂に入った時に100まで2回数えたら出てもいいだとかね。そういうようなこと。それが発展して、九九を一から九の段までずっとやって全部言ったら出てもいいだとか、そういうことを繰り返し繰り返しやりながら、知らないうちに自分の頭に完全に身についてきたという、そういう思いがあるのですけれども、そういうのはやっぱりどこかでつまずいて定着していない形になるわけですけれども。分数にしてもそうですね。中学校じゃなくて小学校の早いうちでやはりうまく定着していないつまずきがある子ども達の、早めにどんなところでつまずいてどんな手立てを講じてやっていくとその後の子ども達の成長に上手く繋がるかと、そういうことをやはりやっていくと言うことはとても素晴らしいこ

とだという風に、土曜教室についてはどこまでどういう風だということとは分かりませんが、まずやってみて2、3年様子を見る。そういう形で子ども達が分からなかったことが分かるようになるという喜び、そういうものを子ども達に身につけて成長に繋がることできるという風に私自身が期待をしております。

(議長)

事務局に聞きたいのですが、2回程やられたとのことですが、何人出たのですか？全員出席ですか？

(学校教育課長)

欠席者は数名みえました。

(議長)

数名程度ですか？

(学校教育課長)

はい、ほぼ出席です。

(議長)

80人というのどこから出た数字ですか？

(学校教育課長)

だいたい一人の先生が何人くらい教えるのが適当、適当という言葉はおかしいですけれども、やはりたくさんいますとそれだけ手が差し伸べられませんので、一人の方がだいたい何人位いけるのかなということを考えまして、一人あたり4人くらい付けられないですかねということから、全部で80名くらいを想定しておりました。

(議長)

それだと、大体先に先生の数として何人みえたということが分かっているから、一人何人担当くらいということではかけ算して、80人と書かれたのではないかと勝手に推測しますが、150人応募されてきた方がいるので(受けられなかった方については)どうするのですか。

(学校教育課長)

全部で150名ほど応募がございました。で、その段階で、学校の方に、お子さん達の成績、学習状況、そういったものは教育委員会で分かりかねるところがございますので、学校の方にお願ひしまして、このお子さんの学習状況がどの程度のものかを教えて頂きまして、全体的な人数を出しまして、またこの子はちょっと成績が・・・

(議長)

(成績が) 良いから、入らなくてはいいのではないかと判断したということですね。

(学校教育課長)

結果的に、80人くらい、80人ではちょっと足りませんでしたので今回88人。8人ちょっと増やしましたがけれども、この子は入れた方がいいのではないかなと思われる子は入れて88人ということになっております。

(議長)

土曜教室に入った方がいいと思われる子が88人みえたということですね。

(学校教育課長)

結果として、一番最初に80人という想定をしていたのですけれども今回結果的に88人となったのですけれども、それから見ると、このくらい的人数がいいのではないかなという感じがしております。何がこれくらいの感じでいいのではないかなと言いますと、成績というのですか学習状況。小学校ですと1、2、3の三段階評価になっておりますのでその中の単純に真ん中は2の真ん中くらいが真ん中ら辺ということですがけれども、そうすると2の真ん中ら辺くらいの子までは拾ってあげたいなということでは、ここまでの方は拾えましたので、このくらい的人数がいいのではないかと。その人数より更に増やしますと、今度また先生の数を増員、あるいは部屋の中の状況ですね。ぎゅうぎゅう詰めになってしまうと言ったこともありますので。今の状況ですと、部屋の方もぎゅうぎゅう詰めまでにはいっておりませんので、先生の目も届きやすくいいのではないかなと思っております。

(教育委員長)

今、学校教育課長さんからお話しをききましたけれども、最初こうやってやるということを聞いた時に、どうやって集めるのだろうか、それが一番の心配になりまして、こういうことをやるぞって、小学生対象にやると、どちらかと言うと、おれもおれもと受けなくてもいい子が応募してくるということもあり得る、それから受けてほしいと思う人が入っていない、そういうこともあり得るので、学校とやっぱりぱちっと組んで、学校の特に担任の先生はこの子どもがどの位のレベルで、どこをもうちょっと学習するともっと伸びるということを全部知ってみえますので、そういう土曜教室の狙いそのものをやはり学校の先生、特に担任の先生にお話しして、今の2の半分くらい5、4、3、2、1の評価でいくと1と2ぐらいの子を狙って、最終的に実施した時に1と2ぐらいの子がいる形で上手く両面から指導してやると土曜教室のいい点が出るのではないかなと私は思って、そうやって学校と上手く連携をしながらやってくれたらいいなという風に思いました。

(議長)

教育委員長さんが言われたことに環境ということがあったのですけれども、環境のもう一つ後ろにいろんなことを覚えるということがあったと思うのです。暗記、読んで覚える。今は、それは授業であるのですか。学校から覚えてこいと言われることが、昔は学校で一人ずつ順番に言った覚えがあるのですが、そう言ったことは今あるのですか。

(教育長)

授業によっては、調べたことないのですがあると思います。

(議長)

そういう環境がないと、なかなか難しいと思うのです。九九は、足し算。そういうのを簡単にしていくために暗記にしている。そういう環境がないとそれだけ覚えろと言われても覚えられない。そういうことが大事なことだと思って地区でも覚えるということをやっているのですけれども。

(教育長)

国語の授業で、例えば小学校ではないかも知れませんが、中学校で枕草子を全部暗記するようやっているところもあります。

(議長)

全部やっているのですか？やっているところとやっていないところがあるのですか？

(教育長)

そうですね。

(教育委員長)

そこなのですよ。きちんとやらないと身につかないので。期間を決めてここからここまでの段階で完全に丸暗記すると。何回も何回もやって学校へ来たときに隣同志の子どもたちとお互い聞いてもらって確認する。最終的に先生がきちんと確認するという形で順番にこうやって積み重ねてやって定着をさせていく。そういう形を今取っていると思いますよ。

(議長)

途中が抜けてしまうと数学は分からなくなるのです。一つずつやっている訳なので。分からないと分からないままにはいけないので。

(教育長)

中学校になって分数が分からないという子がいるので、やっぱりそういうことは基礎学力として義務教育では最低のことを教えておかなければならないと思います。

(議長)

その他にありますでしょうか。

(職務代理者)

すごくいい試みだと思うので大賛成ですけれども、多少なりとも算数でつまずきのあるような子達が生徒さんなのかなと思うと5、6人に一人の先生と言うのは、ちょっと大変なんじゃないかなという風には少し感じています。つまずいているところも皆違

うでしょうし、先生ではないので感覚として分からないのですが、個人指導の塾だと2、3人に一人くらい先生が付いてらっしゃるような気もするので、授業形式みたいな個別指導でやってらっしゃるのか、学年別で授業形式でやってらっしゃるのかにもよるのですけれども、せっかく土曜教室に行き始めたけれども、また皆の中で自分だけ分からないというような環境ができて行かなくなるというのは避けたいなと思っていて、一人一人のつまずいたところをちゃんと教えてあげて、勉強って楽しいなと思うようなケアができていくといいなというのが一番目的なのかなと思うと、もう少し先生達の人数がある方がいいのかなと言うのを今年一年やってみて、どうだったかという調査というか、生徒達の達成上のことであつたりとか、先生たちの指導のあり方でやりやすかったとかやりにくかったというような答えを出す一年であるといいのかなという風には思います。

何となくちょっと少ないような気がして。

(教育長)

指導者がということですか。

(職務代理者)

5、6人に一人だとみんな違うところをつまずいていて、そもそも勉強が嫌いな子もいたりするので、もっとしっかり聞きたいのだけれども手も挙げられない、そんな子もいたりするのかなとかいろいろ思うとちょっと少ないのではないかなとは思っているのですが、とにかく一年間やってみないと分からないと思うので、一年やってみてどうだったかというのを振り返れるといいかなと思います。

(学校教育課長)

先生につきましては、柏森で6人、高雄で4人、山名と扶桑東で3人ずつの16人ということでやっていただいております。その中で各施設毎で先生方でどういう割り振りにしてやろうかと、そういうのは、地区の先生方で中で調整して頂きまして、この先生は何年生、この先生は何年生、あるいは学年関係なしに、この先生はこの4人で教える、そういうのを先生方の方で調整して頂いてやって頂いています。今の委員さんが言われましたように、結果ですね。これはまた先生方に意見も聞いて、これから反映させ

て頂きたいと思います。

(職務代理者)

授業形式が個別とか全体というのも先生にお任せですか。

(学校教育課長)

そうです。それで全体のコーディネーターとしまして、16名の他にお一人の先生で全部で17名を今お願いしているのですけれども、総括としまして、コーディネーターの先生1名配置しまして、その先生を中心に、あくまでも教科書中心なんですけれども、その教科書に基づいた問題作りをして頂いて、問題集というかプリントを全てに配りまして、そちらでまた個別指導にして頂いておりますので、全体的に同じような形の指導にはなっているかと思えます。

(教育委員長)

職務代理者が仰られたように、一年間まずやってみて、その結果をといるものだと思うのですけれども、こういう体制の中で、人数の中で先生としての手応え、反対に子ども側からの子どもの手応えがどうであるかというのをきちんと反省をして、もう少し人数を増やした方が先生としてはもっと子ども達に分かり易く教えることができるのか、いろんなことが出てくると思えますので、それで一年様子を見て、両面での業態ということで、様子を見るというのではないかなとそういう風に思えます。

(議長)

放課後子ども広場は、その中で授業をみたいなのをやっているのですか？

(生涯学習課長)

広場は授業はやっていません。ただ、自主的な宿題をやったりするようなことはやっております。

(議長)

それを手伝うというようなことは・・・

(生涯学習課長)

分からないことがあったりすれば、指導者なのである程度指導はしますけれども、直接、学校の先生のように指導をするということはありません。

(教育次長)

マンツーマンになっているように、しょっちゅう聞いてくる子もいるかもしれないけれども、そうでない子もいると思います。

(教育長)

昨年ですかね、県民茶会やった時におもてなしのかざぐるまを広場の子が全部作ったりとか、七夕の時に短冊を書くとか、美術展、休み明けにありますけれども、そういうところへも広場として作品を展示して公民館の方に飾ったりとか、そういう学校の授業とは違いますが、そういう指導をしています。広場は。

(議長)

機会があればある方がいいのだけれども、広場の方でも勉強はやってるのかなと思ひまして。

(教育長)

それはちょっとやっていないです。宿題をやっている子がいるかなと思います。

(教育次長)

自主学習です。

(議長)

結論的にはまだ2回しかやっていないからもう少し様子を見て、一年間は様子を見ようと、人数的なところだとかですね。是非生徒教師の関係の人数について一年間様子を見てから、また判断するというところで、今日のところはそのくらいにさせて頂きましょうか。

(教育長)

最後に去年決めた教育大綱ですね「ともに支え合い、学び合い、未来へつなぐ扶桑の人づくり」ということで最終的には扶桑町の

まちづくりにも繋がるし、今は小3から小6だけれども将来はふそう土曜教室で勉強したなとかそういうことを思い出して、扶桑町に大変世話になったと、貢献しなければという、そういう気持ちをは湧いてくるのではないかなと。やっぱり人づくりはしていかなければならないので、大村知事も最終的には人づくりが大事だとおっしゃってみえますし。最終的には学校の先生にお任せすることになるとは仰いましたけれども、そちらもこちらは受け止めてやらなければいけないと思います。

(議長)

学校の先生が第一なのですが、色んな人たちが協力する。例えば教員を目指す人たちというのは、当然、こういう子たちが現場にいる訳なので、最初にそういうところに遭遇していた方が対応をどうしていったらいいか分かり易くなるので、そういう人達をサブとして雇う手もありますね。それも一年経過して先生達が手に負えないという話になれば、そういう人達、次に教育を目指す人達、学生さんでもいい訳ですからね。

(教育長)

第1回目をやった時に、教育委員会がそういうことをやっていると言ったらお手伝いしたいという方が二人お見えになりまして、それは大人の方だったのですけれども、今、議長が仰ったように教員を目指す子が今、扶桑町がスクールボランティアというのを募集しておりまして、勿論無償ですけれども、保険だけは掛けるようにして、そういう子がおりますので、是非そういうのをやってみたいという講師の登録に来た子に、土曜日に授業をやるので一回お手伝いに来たらどうと、そういう風にやってみようかなと今思いました。

(議長)

いいと思いますね。いろんな人達の力を借りてね。

(教育委員長)

土曜教室に限らず、適応教室なんかも興味があって、学生から手を挙げて、やらせて下さいという申し出があるかもしれないですね。

(議長)

一つどこかで、そういうものを作り上げていけば、そういうものが普及してきますから。

では、一番目の協議事項については、この程度にさせて頂いてよろしいですか。

(学校教育課長)

【本日の配布資料について、1点語句訂正があったため訂正の説明】

(議長)

では、議題1についてはここで終わらせて頂きます。

(2) 子どもの支援について

(議長)

次に、2番の「子どもの支援について」に入らせて頂きたいと思えます。では、子どもの支援につきまして事務局説明をお願いします。

(政策調整課長)

説明員といたしまして学校教育課長からご説明申し上げます。

(学校教育課長)

【「子どもの支援について」説明】

(議長)

今、学校教育課長からいろいろ子どもの支援事業についての説明がありましたが、質問でもよろしいですし、意見があれば仰っていただければありがたいです。

(教育長)

一つ、目に見えてと言いますか、学校からの意見ですけれども、子ども支援事業の、特別支援員派遣事業、小学校27名、中学校4名。この制度については、10年になりますけれども、授業を受けながら教室を立ち歩いている子がいるというようなことがあった時に担任がその子について運動場に出て行くと他の30何人は教室に取り残されるので、そういうことは何とか対応していく

人がいないだろうかと言うことで、扶桑町が先駆けて取り入れた派遣事業でありました。人数が今これだけいます。校長会でそういう話をしますと本当に助かると言われます。特別支援学級ではなくて通常学級の中にそういう子が今増えている訳ですので。机につっぷしているだとか、床の上に寝ているだとかそういう子がいて、その子に対応して頂ける人を配置して頂いていることは学校からは本当に有り難い感謝の言葉しかありませんので、是非これは続けていきたいと思っていますし、そういう子が増加しているため、もっと配置して欲しいという要望を毎年受けるんですけども、これ以上はちょっと難しいので、中でやりくりしてくださいとお話ししているんですけども。これは各市町に先駆けて扶桑町が予算を認めて頂いた素晴らしい事業だなあと、私は思っているのですが、それは現場の学校からそういう意見を聞くから、いいのだなという風に思います。

(議長)

教育長、どうしてこんなに多く増えているのですか。

(教育長)

これは国の方も調べるといふか、各調査をして、正確には病院でこの子は ADHD ですよと診断を受けた子ばかりではないのですが、そういう傾向をある子を調べた時に各学級に6%、40人いると2.4人という事が言われています。担任の先生が一番困るのは授業が進んでいかないということ。

席に着きなさいよとかそういう事ばかり言っていると授業ができないということがあって、一般的には6%といわれているのですがそういう子が増えております。私も平成16年からこの事業を入れたと思いますが、その頃にそういう子が顕著になってきて、それから、うちばかりではないよ他の学校もいるよということで、それに対応して最初は小学校1年生になった時に保育園幼稚園から来ていきなり45分座っていなければならないということで、入れたのですけれども、そうではなくて、そういう発達障害、障害のある子ではないかなあとと思われる子が出てきたものですから、これは、扶桑町だけではなくて、以前教育委員会の視察で舞鶴行った時にそういう事が起こった時に、福祉児童課とタイアップしてそういう動きを整えたと。今、どこの学校でもそういうことをどうやっていこうかと、扶桑町はこういう風に特別支援を付

けて頂いたものですから、大変私はよかったなと思いますし、数としてはそういう風に言われております。

(松山委員)

今、言われましたことについて、私、昨年と今年学校訪問させて頂いて、今年はなかったのですけれども、昨年の時に1名、一番後ろの席にいた生徒さんが授業中立っていた。その時に私は分からないので、教育長に聞いたらそう言われて、支援がいますよという風で。やっぱりそういう時、子どもが出てった場合に授業が中断するので、そのために付けているということで説明を受けました。そういう人が今はできたのだと言うか、そういう子がいるんだなということで、聞いた覚えがあります。

(教育長)

一般に言う変わった子ではあるのですけれども、とても頭がいい子がいます。アインシュタインとか小さい時はそのような感じだったと。ですから能力の発揮をする場所がちょっと違うということだけで、そういう事を理解してその子にやっていただかないと、その子の将来はきっと素晴らしいかもしれないから。そういうことを思ってやらないといけないですね。

(議長)

そういう子はいますからね。

(教育委員長)

授業中そわそわして、落ち着きがなくて席を立ったりする子が出始めた時に、それまでの教員の世界だったら、「担任失格じゃないか」と言われていました。だから、昔昔の人達は手腕がある教員仲間というのはどんな人もきちんと治めるのが非常に上手だった。今は、自分勝手放題にやるというその子達をもっと、抑圧されて一緒にぎゅーっとやろうとすればするほど、離れていくという傾向がありますけれども。そういうことは分からずに、今までの慣例でいくところいう子が出てきたということが担任の力が足りないのではないかと最初の頃はよく言われました。よくよく調べてみると、先ほどの話ではないけれども、多少なりとも障害がちょっといろんなところにあったと。

(教育長)

一番下のスクールソーシャルワーカーもちょっとお話ししようかと思ひます。全国的には不登校というのは増えておりまして、減ったり増えたりするのですが、またちょっと増加の傾向があつて、国会でもフリースクール、国会に提案しようかどうかという話がありまして、学校へ来れない行けない生徒達が増えておりまして、扶桑町はそういう子のために適応指導教室あいあいをやっているのですが、そこにも来られない子もいますし、結局、学校と家庭と適応指導教室があるんですけどもそれぞれ独立してやっていたはいけないので、ふそう土曜教室が学校とよく連携を取つて入る子を決めたように、やはり仲立ちをするような人がいるともっと上手くいくのではないかというようなことが言われており、実際そういうソーシャルワーカーを置いているところは大変いいですよという声を聞きます。教員でなくて社会福祉士の資格がいるのですが、そういう方を一人でも配置できると多少なりとも不登校について、教員が不登校の子ばかりだと家庭訪問したりするのですけれどもそれだけだととてもできないので、教員は授業をやらないといけない訳ですから、そういうことをやる人がいるといいのではないかなと、実績がそういうようなことを聞くものですから、検討事項のところに入っておりますけれども、国の方も県の方もそういうものをいいと言うことで考えておるんですけども、なかなか予算も通らないところもありますので、どうかと、いうところでございます。

(松山委員)

今、不登校のお子さんは何人くらいいるのですか。

(教育指導主事)

27年度ですと30日以上の欠席者が小学校13名、中学校23名、計36名の30日以上の長期欠席者がありました。

(教育長)

30日を基準にしておりまして、それ以上の30日以上休んだ子を不登校というふうに言つて数字になつて出てくる人数です。それが昨年36人ですね。

(職務代理者)

いつまでで30日以上ですか。

(教育長)

一年間です。ですからまだ、夏休み前までは少ないですけれども、これがだんだん9月になって10月になってくると、それまでは10日だったけれども、次また10日と、最終的には人数が増えるということになります。学校は一生懸命やっていて、あいあいも一生懸命やっていますし、両方一生懸命やっているのですけれども、もう少し家庭と仲立ちをする人がいるといいのではないかなと思うのですが、それが上手くいっている例をたくさん聞いているので、そういう人を置いたらどうかと思っております。

(議長)

これは教育委員会だけじゃなくて、いろいろな分野に相談員が本当に必要になってきたのです。もともと行政の職員というのは相談員でも何でもない訳で事務方職員なのですから、職員が相談を受けているようなところもありますので、相談員が色んな分野でいるようになってしまったと思います。

(教育長)

役場は今年相談員を一人入れたのですよね。

(福祉児童課長)

私のところは、精神保健福祉士が一人入りました。

(教育長)

今、核家族になって両親と子ですから、両親が三世代ではないので結局子育ての相談に行くところがないので、子どもがおかしくなってもどこに相談していいか分からないので、全部自分で判断して最終的には虐待に繋がっていくので、相談する人が本当に必要で、町長が仰ったとおりだと思います。それは学校だけに限らず、そういう相談をするところが必要だなと思いますけれども。

(教育委員長)

家庭と学校を上手に橋渡しする、こういうスクールソーシャルワーカーというのはあると子どもたちの立ち直りも早くいくのでは

ないかなというふうには思いますね。さっきお話を聞いていて、不登校と言うのは大変休み明けがそういう傾向が多いのですね。5月の連休明けだとか、夏休み明け、そういう頭のところが一つの休むきっかけになってしまう。

(議長)

不登校はいろいろな意味で不登校があります。ある事例としてはなかなか学校に行かないけれど学校の先生の一言で行けるようになった。その先生が「頑張らなくていいよ」と言っただけです。その頑張らなくていいよで肩の荷が下りたみたいでということがあった。

(教育長)

そういうソフトでいくといいと思いますが。昔はそうでなかった。

(議長)

また町のいろいろなことと見比べまして、限られた中でのことですので、ただ、子ども達のことであれば、やっていきたいとは思いますが、行政側財政側のこともありますので、その辺は研究したいと思います。

子どもの支援についてはここに書いてありますとおり、劣るようなことはやっていないと思っておりますが、どんどん時代が変わっていきますと新しいものがどんどん出てきますので、どこまで対応できるかというのがありますが、ボランティアの人達だとか色々な地域の人達だとか、そういう人達の協力を頂きながら付けるものを付けていかなければいけないと思います。検討事項につきましては検討していかなければならないことだと思っておりますのでよろしく願いいたします。

2番の子どもの支援についてというところは終了したいと思いますますがよろしいでしょうか。

ありがとうございます。本日の協議事項につきましては、以上でございます。

3. その他

(議長)

その他といたしまして、ご意見ご提案があれば承りますが。いかがでしょうか。

今後、重要事項や緊急事態については、随時、総合教育会議を開催し、会議の中で協議・調整をしてまいりますので、よろしくお願いいたします。本日はこれで終了いたします。どうもありがとうございました。

(総務部長)

では、最後でございますが、今年度の定例的な総合教育会議につきましては、年度末頃ではございますがまた第2回を開催させていただきたいと思っておりますので、予定の方よろしくをお願いいたします。また事務局からご通知させていただきます。以上をもちまして本日の総合教育会議は終了させていただきます。ありがとうございました。

【午後2時45分終了】